

「静域のふち」

— 2 稿 —

2025/03/23

米俵

へ人物表へ

ユイカ

(10) ↓ (18)

禁域へ入り込む少女

少女A

5才程度 ↓ 13才程度

少女B

10才程度

紳士

男

1. 広場（昼）

大勢の子どもたちが走り回る。

広場の隅には、古びた高いフェンス。その向こう側には、黄色い葉で埋め尽くされた並木道。

ユイカ（10）、花壇の淵に腰かけている。

広場の横を通り過ぎる制服姿の学生たちを見ている。

広場に視線を戻し、一人の少女に目をとめる。

少女A（5才程度）、シャボン玉の液にストローを浸し、ゆつくりと息を吐く。

透明な玉がいくつも空へ浮かび上がる。

シャボン玉はフェンスを越え、イチヨウ並木へと吸い込まれる。

ユイカ、その行方を目で追う。

黄金の光に触れたシャボン玉が、はじける。

その破片は、消えることなく、光る塵となってイチヨウの葉に降り注ぐ。

ユイカ、目を見開く。その瞳に黄金の光が映る。

ゆつくりと、フェンスに近付く。

ふいに、手首をつかまれ、驚いて振り向く。

少女Aが立っている。

ユイカ、目線を合わせ、少女Aの頭を撫でる。

少女A、ユイカの腕からゆつくりと手を放す。

そして、斜め掛けしていた鞆の紐を強く握る。

ユイカ、微笑む。

少女A、子どもたちの喧騒の中へと戻っていく。

ユイカ、少女Aの後ろ姿を目で追う。

広場へ戻るために歩き出す。

フェンスを一度振り返る。

2. 広場（夕）

空は薄暗く、人影がまばらになった広場。遠くで車の走行音が響く。

並木道は夕日に照らされ、鮮やかな黄金色を放っている。

少女A、フェンスの方を見つめている。

3. フェンス前(夕)

ユイカ、一人たたずんでいる。

ユイカの足元。薄汚れたスニーカーのつま先に泥。

地面に、何度も掘った跡。

ユイカ、フェンスに沿って歩きだす。

金網が不自然にめくれている。子ども一人が通れる程の穴。

イチヨウの葉が数枚、こちら側にこぼれ出る。

ユイカ、恐る恐るしゃがみ込み、穴を見つめる。

黄金の光が、ユイカの足元を照らす。

ユイカ、スニーカーをじっと見つめる。

少しの間。

ゆっくりと靴ひもに手をかけ、丁寧にほどく。

這いつくばる様にして、頭と肩を穴へ入れる。

片方ずつ、靴を脱ぎ捨てる。

ユイカ、穴の向こうへ。

アスファルトの上に無造作に転がるスニーカー。

4. イチヨウの並木道(夕)

聞こえていた街の喧騒が消える。

ユイカ、ゆっくりと立ち上がる。

黄金の絨毯の感触を確かめるように足踏み。葉の音だけが響く。

視線を感じ、顔を上げる。

黒服の紳士が立っている。動かない。

ユイカ、後ろを振り向き、確認。

フェンスの向こう側。人は行き交っているが、こちらを見る様子はない。

ユイカ、紳士を見つめる。

紳士、無表情。動かない。

ユイカ、歩き始める。

どんどん奥へ進む。色の濃い影が前へ長く伸びる。

先にある木の陰から、薄い影が伸びている事に気付く。

ユイカ、走って駆け寄る。

少女B（10才程度）が、満面の笑みで顔をだす。

二人、見つめ合う。

示し合わせたように同時に吹き出す。

少女B、手を差し出す。

ユイカ、その手を取る。

二人、スキップ。足音はしない。

くるくると回る。

黄金の葉が舞い上がる。

少女B、笑う。

少し遅れてユイカも笑う。

少女B、踊り始める。

ユイカも真似て踊り始める。

ユイカ、突然動きを止め、フェンスの方を振り返る。

フェンスは見えない。

ユイカの表情が強張る。

少女B、ユイカの顔をつかむ。無理やり視線を合わ

せる。

そして、ユイカを抱き寄せる。

ユイカ、驚いた顔。

やがて、ユイカの力が抜け、抱き返す。

二人の影が絡み合い、一つに溶け合っていく。

二人の影の縁から、黒い粒子がぼろぼろと崩れ落ち、

宙へ舞い上がる。

二人、再び踊り始める。

影が全て消える。

二人、笑顔のまま黄金の絨毯の上に倒れ込む。

ユイカ、少女Bの肩に頬を寄せ、瞼を閉じる。

× × ×

ユイカ、ゆっくりと目を開ける。

少女Bの姿がないことに気付く。

急いで起きがる。

少女Bがいた場所はイチヨウの葉が少し沈んでいる。
ユイカ、確かめるように触れる。

少女Bの名を呼ぶように大きく口を開ける。音はな
い。

並木道の奥に人影を見つける。

走って近づく。

影のない子供たちが、人形のように踊り続けている。

ゆっくりと後ずさり。

走り出す。

足に黄金の葉がまわりつき、走りを邪魔する。

前のめりに転ぶ。

顔を上げると、黒服の紳士が立っている。

ユイカ、紳士の服を掴み、少女Bが消えた方向を指
差して激しく訴えかける。

紳士、表情ひとつ変えない。

ユイカ、紳士を突き飛ばそうとするが、逆にしりも
ちをつく。

ユイカの目に涙が滲む。

手で拭って、顔を上げる。

紳士の後ろ、うっすらとフェンスの影を見つける。

必死で走る。

紳士、ユイカの後ろ姿を見ている。

ユイカ、すがりつくようにフェンスに手をつき、穴
を探す。

穴を見つけ、覗く。

穴の向こうには、灰色の地面と、自分が脱ぎ捨てた
スニーカーが転がっている。

ユイカ、安心した表情。

穴に手をかけ、向こう側へ這い出そうとする。しか
し、ユイカの身体がフェンスを通り抜けられない。

さつきまでスムーズに通れたはずの穴に、肩や胸が、
つかえて動かない。

ユイカ（18）、自分の身体を確認する。

手足は長く、節くれ立ち、子供特有の丸みが消えて

5. 道（夜）

いる。

ユイカ、急いでフェンスの穴を広げようとする。

ユイカの爪先がぼろぼろになっていく。

何人かの通行人がフェンスの前を通り過ぎる。

ユイカ、何度もフェンスを掴み、揺らす。

誰も気付かない。

ユイカ、力が入らなくなる。

フェンスに寄りかかり、イチヨウ並木を見つめる。

視界が歪み始める。

街の喧騒が聞こえ始める。

足元の黄金の絨毯が、色を失い、硬く、冷たいアスファルトへと変わる。

風で舞っていた黄金の葉は、街のネオンを反射する汚れた雨粒や踏みにじられたゴミへと変わる。

整然と並んでいたイチヨウの木々は、等間隔に並び若い少女たちの姿へと形を変える。

少女たちは、スマホの青白い光で顔を照らされている。誰も顔を上げない。

ユイカ、そこに同化するように立っている。

ぼろぼろになっている自分のネイルを確認する。

一人の男が、ユイカに近づく。

ユイカ、男の顔を確認。その場から動かない。

男がスマホ画面を見せる。

ユイカ、画面を覗き込み、慣れた手つきで自分の髪を触る。

男が催促するように顎で行き先を指す。

ユイカは男の後ろをついていく。

遠ざかるユイカの後ろ姿。

ユイカ、一度立ち止まる。

振り向こうとするが、やめる。

すぐに歩き出す。

ユイカの後ろ姿を見つめる制服姿の少女A（13才

程度)

肩からかけた鞆の紐を強く握る。

方向を変え、歩き出す。

(おわり)